

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201179		
法人名	医療法人 陽成会		
事業所名	グループホーム ヒロセ		
所在地	愛媛県今治市国分7丁目4番36号	(電話)0898-43-6662	
自己評価作成日	平成21年8月17日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会		
所在地	松山市持田町三丁目8番15号		
訪問調査日	平成 21年 9月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○寄り添うケアを基本とし、利用者様一人ひとりの思いを大切にされた支援を行っている。又、利用者様同士の関係作りにも注意を払っている。

○利用者様、ご家族にとって母体の陽成会の広瀬病院・広瀬クリニックと連携を取り、訪問診療・訪問看護のバックアップが24時間とれる体制で、医療面・安全面での安心感がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であるため、24時間の連携体制が整っており、利用者及び家族にとってはいち早く適切な対応ができることで安心感が高い。感染症予防対策についてもきめ細かく対応し、利用者を守ることに専念している。利用者の状態に応じて変化するケア体制について、柔軟に対応できるよう努めている。比較的自立度の高い利用者が多く、「疲れてるよ」などと職員に優しい言葉をかけてくれるなど、職員の方が癒され感謝しているとの発言も聞かれた。「その人らしい生きがいがある心地良い今」を実現するために、日常会話の一つひとつを見逃さないよう傾聴する努力を続けている。利用者は、生活の中で得意分野を活かしながらいきいきと心豊かに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ヒロセ

(ユニット名) もくれん

記入者(管理者)

氏名 羽藤 千春

評価完了日 21 年 8月 17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 医療法人陽成会の基本理念『相手を思いやる「和」の心と「誠意」をもって接する。』を基本に、毎日朝礼時唱和をしている。 「その人らしい生きがいのある心地よい今」を理念に掲げ、穏やかで家庭的な雰囲気でもらしているよう支援している。</p> <p>(外部評価) 認知症介護に必要な視点を的確に表現した理念を目標としてケアにあたる職員の理解度は高く、利用者の喜び、家族の安心、職員のやりがいに繋がっている。地域の一員であることも絶えず意識している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の国分寺・綱敷天満宮等に、初詣・地方祭(みこし来訪)等実施。自治会主催の「盆踊り」「文化祭」等に職員参加している。又、自治会の水路掃除・お寺の草ひき等にも参加し日常的に交流が図られている。</p> <p>(外部評価) 現在は感染症の予防を第一に考えて地域との関わりを控えている面はあるが、ホームは自治会に加入して地域の情報を得、行事等を通じて地域の方と交流することを楽しみにしている。小学生や幼稚園児の「見守り隊」として地域に貢献することも利用者の大きな役割であり、生きがいとなっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 自治会の会議時、運営委員会等でホームの取り組み・行事等報告することにより少しずつ理解されている。保育所との交流、小中学生との体験学習交流(老健へ来た時に会話)等により理解されるよう活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。行事報告、研修報告等行い意見交換も行われている。又、利用者様の意見を聞き、出来る事はサービス提供と反映していく。意見を真摯に受け止め、サービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には利用者・家族・民生委員・市担当者等が出席して報告や意見交換を行い、詳細に記録を残している。出席できなかった職員にも内容を伝達している。会議を、学習の場、さらに地域との関わりを深めていく場として捉えており、今後の取り組みが期待できる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議や家族会でケアの実情を把握して、地域包括支援センターのケアマネジャーや担当職員と連携している。地域包括支援センターや居宅支援事業所ケアマネジャーに運営委員会に出席してもらい、日頃の取組みを報告している。在宅支援の専門的立場から率直な意見をもらい、質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) ホームは法人内の一事業所であることから、市との直接の対応は法人内の居宅介護支援事業所のケアマネジャーが中心的な役割を担っている。市担当者は認知症ケアに深い理解があるため、課題解決のための支援を得られている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) グループホーム内だけではなく、法人全体で拘束をしないケアに努めており、Webを活用して情報の共有に努めている。利用者様の身体状況・日常生活を十分観察して拘束をしないケアを実施している。</p> <p>(外部評価) 法人全体で行っている身体拘束をしないケアの勉強会にホームも参加して学び、職員間で正しく理解して共有している。玄関の施錠は20時から6時30分とし、安全に配慮しながら自由な暮らしを支援できるよう配慮している。言葉かけ等で気がついたことは職員同士で話し合い、アドバイスし合っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉による拘束も虐待の一部だと認識している。一部ユニット間の人員交代も実施している。少しの変化も見過ごすことがないよう、勉強会も行って職員間の意識向上等注意を払い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在財産管理・運用に対する問題のある方はおられないが、必要に応じ資料による説明を準備している。又、居宅介護支援事業所と支援センターとの連携を確保し支援できる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 担当ケアマネジャーと十分な話し合いを持ち、助言を受けながら重要事項説明書にて説明し入居の検討をして頂いている。又、利用者様やご家族の権利を尊重し、納得してもらえる介護を提供するよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族来訪時や電話にて日常の様子をお話し、意見・要望をお伺いしている。又、意見箱・アンケートを実施し職員全員に周知徹底しサービス改善に努めている。 運営推進会議にご家族にも出席頂いている。  (外部評価) 日々穏やかに明るい表情で生活している利用者に家族も安心しているが、管理者は何でも伝えてもらえるよう努力している。家族の希望や接遇についてのアンケートも実施し、サービスの向上や改善に活かしている。第3金曜日の家族会（ファミリーday）でゆっくり家族と会話する時間があり、その際にも意見や要望の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 介護老人保健施設との合同ミーティング、グループホーム独自のミーティングに於いて意見交換を行っている。又、法人の運営委員会にて提案し、代表者にも意見が届き反映されている。  (外部評価) 職員が意見を出しやすく話しやすい雰囲気が作られている。全職員の意識の中に「ホームを良くしたい、良くしていこう」という気持ちが強く、代表者や管理者も職員の声に耳を傾けるよう心がけ、よい気づきやアイデアを活かして運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者、職員が出席する全体会議等に参加し、職員と意見交換する機会をつくっている。又、ホームへ訪問し職員個々の意見も積極的に聞いている。課業評価にて自己計画、反省として各自が向上心を持って職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員一人ひとりの目標や自己評価に目を通し、個々のケアレベルの把握に努めている。又、資格取得のためのセミナーや対外的セミナー等への参加も進めて、ケアの質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会等参加し、交流を図り意見交換をし、サービスの質の向上に努めている。法人内での運営推進会議にて他事業所との連絡会、勉強会を実施し質の向上を行っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 契約・入居時等、利用者様の思いを十分くみとる努力をしている。又、ご家族・担当ケアマネジャーの協力を得ながら、ご本人が安心して頂けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期の入居相談よりご家族でホーム見学をして頂き、生活の場であることを理解した上で利用して頂く。ご家族より発言できる雰囲気作りをし、利用者様の権利を尊重し十分説明・同意を得ながら聞く機会を多く持ち信頼関係を構築している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人・ご家族の意見も十分伺い、又、担当ケアマネジャーとも話し合い助言を受けながら真にグループホームでのサービス提供がふさわしいのか否か検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩としての関係を持つことを心掛けて接する。家族的な関係を少しでも築けるよう努力している。調理等、生活面でも利用者様と共にやり教えて頂いている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 正にご家族の一員、代理家族としてのケアとして面会時にはホームでの生活状況をお話し、状況を共有するようにしている。同じ目線で日常生活に寄り添うよう、お互いの関係を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個別的な場所に関しては、ご家族の方の協力を得られるよう声掛けをしている。ご本人が希望される場所については、ドライブ等利用している。又、馴染みの方については面会あればご家族にも報告している。面会や一緒の外出・外泊など、ご家族やご友人との関わりが続けられるよう職員からも促している。  (外部評価) 同法人の介護老人保健施設での交流会では、利用者が昔馴染みの方と接することも多く、楽しみの一つとなっている。また、法人内施設主催の音楽会等にも参加するなど、積極的に関係づくりのための取り組みを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様それぞれの個性を尊重しながらも9人が良い関わりができるように気配り、きっかけづくりなど配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も、育てたお花を持ってきて頂くなど気軽に来所してもらっている。又、ケアマネジャーとも情報を共有し、相談・電話が出来るよう支援している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメントを行い把握している。コミュニケーションをとりながら、ご本人の思いを察知し精神安定に努めている。 又、時・場所等も考慮しながら全職員が利用者様一人ひとりの意向を把握するよう努力している。 (外部評価) 理念の「その人らしい生きがいのある心地良い今」をケアに活かすために、利用者の要望を把握して記録に残し、毎月のカンファレンスの中で検討してケアに繋げている。テレビを見たり、会話をする中で思い出の景色や八十八所参りなどが話題になることもあり、思いや意向の把握に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご家族に生活歴や自宅の様子をお聞きし把握に努めている。馴染みのある物など、ご家族に協力して頂き居心地のよい空間作りに努めている。全職員が生活歴を十分に把握し、個々のサービス利用に役立てるよう努力している。回想法的なケアも行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ある日突然に心身状況が変化することがある事を認識して、一人ひとりの現状把握を行っている。食後の休息等利用者様のペースに合わせ支援している。生活のリズムを守る為、一日の流れはやや決まっている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 毎日の気付きを書くシートを使用し、ケアプランに連動できるようにしている。毎月のカンファレンスにご本人・ご家族の意見も伺い利用者様個人の特性と現状に即した介護計画を作成している。ユニット職員全員がチームとして全員の介護計画を把握しておくようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者を担当制にしており、担当者不在の間のこともしっかりと申し送りを行っている。その人らしい生活を実現するため、3項目程度のサービス内容を立案している。介護記録に利用者の会話を盛り込むことで、より具体的な様子がわかるようになっている。3か月に1回評価し、計画を見直している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者様一人ひとりの変化や状況を個別記録に具体的に記録し、職員間で情報を共有しながら実践している。状態変化等あれば随時見直しをしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 小さな事でも遠慮なく意見してもらえ雰囲気作りに努め、できるだけ多くのニーズに対応できるようにしている。新たなニーズへの対応方法は常に話し合いをしている。ご家族が訪問された場合にニーズ等を聞き、出来る事は即実施している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 運営推進委員会他、外部からの意見を積極的に取り入れ、適切な資源が活用出来るようにしている。定期的に勉強会を行い、地域資源を把握している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関だけではなく、入居前からのかかりつけ 医にも積極的に連絡を取り、受診できるよう支援して いる。</p> <p>(外部評価) 医療法人が母体となっており、体調悪化や急変時にも 24時間体制で対応してもらえるため、利用者や家族 も安心できる。近所の歯科からの往診も可能となっ ている。その他専門科等の受診は家族の付き添いを基本 としている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 訪問看護ステーションと連携を図り、日常の健康管理 をしている。又、広瀬クリニック・在宅支援診療所と の連携も図れている。 24時間医療連携も可能な支援をしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院加療中も主治医とも連携し、早期退院に向けて話 し合い、又退院後の療養計画・ホーム入居復帰につい てご家族とも相談し協力している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時に説明を行い、意向を伺っている。又、体調変 化があれば、その都度ご本人・ご家族と十分話し合い 説明しながら方針を共有している。 広瀬クリニック・在宅支援診療所・訪問看護ステ ーションとの連携を図り、看取りの経験もある。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時に本人及び家族 に説明して意向を確認している。また状況に変化が あった場合等にはその都度話し合い、方針を共有す るよう努めている。ホームとして看取りの経験もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルに沿って行う。 勉強会で定期的に意識付けを行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月10日を「防災の日」としてマニュアルにて再確認している。自治会の集会や地域の諸会合の時に、協力依頼を行う。定期的に避難訓練を実践し、意識付けを行っている。  (外部評価) 年2回、消防署の指導の下で昼間と夜間を想定しての訓練を、隣接の介護老人保健施設と一緒にやっている。備蓄も完備し、スプリンクラーは市及び消防署と協議して2009年度末までに設置するよう計画している。毎月10日を「防災の日」として全職員の意識付けを行っている。	災害対策について、頻繁に運営推進会議のテーマとして取り上げて地域との話し合いを継続し、地域の協力も得ながら一緒に訓練を行うなど、実践的な取り組みや、緊急連絡網を使った訓練の再確認等、より高いレベルでの訓練を継続実施することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の場所や時間、希望を尊重する声掛けやケアに心掛けている。特に排泄や入浴などは個々の希望に配慮している。  (外部評価) 言葉の内容や語調、家族の意向に沿った呼び方など、利用者一人ひとりに応じた配慮をしている。各居室への入室時は必ずノックをしているが、家族に許可を得たうえで夜間はノックを控えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃より自分の思いを理解するよう心掛けて関わっている。表現や自己決定が上手くできない利用者様にも、表現やしぐさなどを見て思いが伝えられるよう援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活動作の状況に応じて個別化を行い、利用者様の動きに合うように支援をしている。一人ひとりに寄り添ったケアを心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服の着替えについては利用者様と共に確認をして好みに合わせている。又、月2回の理美容の便宜を図っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様の好みを把握し要望に応え、毎月1回の食事会・外食の機会を設けている。食事の準備、後片付けも利用者様が自ら声掛けされることもあり生きがいに繋がっている。毎食時、利用者様の会話を促し明るく食卓を囲んでいる。個々の能力を活かせるよう厨房内の動作にも支援している。 (外部評価) 基本的に献立は栄養士が作成している。味付け・盛り付け・後片付けなどを、力に応じて利用者に行ってもらえるよう支援している。食事中に童謡を流しているユニットもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎月1回の体重測定によりBMI値を出し、変化に注意し管理栄養士にも相談をし確認している。水分量は毎食時確認している。バイタルチェック表にて個々の状況を把握している。水分摂取には十分注意を払い、職員からの声掛けも随時行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとり声掛け・見守り・介助にて、口腔ケアを実施している。又、歯科衛生士による個別口腔ケア指導も行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗なくトイレで排泄できるよう声掛けや介助を行っている。	
			(外部評価) 職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間は30分おきの見回りを実施し、利用者のパターンに合わせてトイレ誘導の声かけ等を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜・食物繊維の多い食事、適度の運動（散歩等）を習慣づけている。又、朝一番の水分補給・夜間の水分補給の声掛けをしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望に応じた入浴を基本とし、入浴が楽しい時間となるようケアに努めている。なるべく入浴時間も利用者様の希望に沿った時間にしている。又、気分転換を図る為、介護老人保健施設ヒロセの湯浴施設で入浴希望される方もおられる。	
			(外部評価) 安全に心地良く入浴できるようバイタルチェックも欠かさず行っている。夜間の入浴を希望する利用者は少ないが、希望の入浴時間を確認しながら個別に支援している。併設の介護老人保健施設の大浴場も利用でき、好評である。入浴拒否のある場合は、職員のチームワークや対応の工夫によって安心感を持って入浴を楽しむことができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様のこれまでの生活習慣はなるべく変えず、休息や安眠できるよう環境づくりにも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診時の医師の指示や内服の内容を把握するようにしている。状態の変化に気を付け、日頃と違う状況であれば医師に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎朝、体操の時間を設けてある。「100歳まで元気でいたい」と意欲的に参加されている。又、毎日の散歩は日課となっており、小学生の下校時の見守りも楽しみにされている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日頃より外出の希望はできるだけ対応できるように、買い物などの日を設けている。自ら希望を言われない方は日常の会話から行きたい場所を聞き、行けるように援助している。	
			(外部評価) 近くのスーパーや薬局へ買い物に出かけたり、気分転換にドライブをかねて外食することは、社会との関係を継続させる働きかけとなっている。家族の協力を得て外出・外泊を実現できるよう、職員からも働きかけられている。日常的に近所に散歩に出かけ、地域の方と挨拶を交わしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭は事務所に預けているが、使いたい時に使えるようにしている。小遣い帳などを活用し、収支の把握や計算が出来るようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族より郵便物が届くとお礼のお電話をするよう声掛けをし、電話にてお話をされる。人と人との繋がりを大切にしております。お孫さんの成長を楽しみながら、定期的には手紙を書かれている利用者様もいます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 畳コーナーや窓辺に座り、中庭の季節の草花を見ながら日光浴を楽しまれている。 夜間ナースコールを遠慮される為、鈴等でも対応している。	
			(外部評価) 共用空間には季節を感じさせる草花を飾り、家庭的な温かみのある空間となっている。イスに座って庭を眺めることもでき、居心地良く自由に過ごすことができるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用スペースの中でも色々な場所で休めるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅の様子を確認するなどし、馴染みの物や家具の配置など落ち着いて過ごせる空間作りに努めている。	
			(外部評価) 仏壇・イス・鏡台など使い慣れたものを家族の協力を得て持ち込み、利用者ごとに個性的で快適な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) できる事、できない事の見極めをし、利用者様ごとにケアプランにあげ場面作り・見守りのケアの中で洗濯物干し・たたみ、食事の準備等積極的にされ自信に繋がっている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201179		
法人名	医療法人 陽成会		
事業所名	グループホーム ヒロセ		
所在地	愛媛県今治市国分7丁目4番36号	(電話)0898-43-6662	
自己評価作成日	平成21年8月17日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会		
所在地	松山市持田町三丁目8番15号		
訪問調査日	平成 21年 9月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○寄り添うケアを基本とし、利用者様一人ひとりの思いを大切にされた支援を行っている。又、利用者様同士の関係作りにも注意を払っている。

○利用者様、ご家族にとって母体の陽成会の広瀬病院・広瀬クリニックと連携を取り、訪問診療・訪問看護のバックアップが24時間とれる体制で、医療面・安全面での安心感がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であるため、24時間の連携体制が整っており、利用者及び家族にとってはいち早く適切な対応ができることで安心感が高い。感染症予防対策についてもきめ細かく対応し、利用者を守ることに専念している。利用者の状態に応じて変化するケア体制について、柔軟に対応できるよう努めている。比較的自立度の高い利用者が多く、「疲れてるよ」などと職員に優しい言葉をかけてくれるなど、職員の方が癒され感謝しているとの発言も聞かれた。「その人らしい生きがいがある心地良い今」を実現するために、日常会話の一つひとつを見逃さないよう傾聴する努力を続けている。利用者は、生活の中で得意分野を活かしながらいきいきと心豊かに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ヒロセ

(ユニット名) つつじ

記入者(管理者)  
氏名 別府 真由美

評価完了日 21 年 8月 17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 医療法人陽成会の基本理念『相手を思いやる「和」の心と「誠意」をもって接する。』を基本に、毎日朝礼時唱和をしている。 「その人らしい生きがいのある心地よい今」を理念に掲げ、穏やかで家庭的な雰囲気ですらしているよう支援している。</p> <p>(外部評価) 認知症介護に必要な視点を的確に表現した理念を目標としてケアにあたる職員の理解度は高く、利用者の喜び、家族の安心、職員のやりがいに繋がっている。地域の一員であることも絶えず意識している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の国分寺・綱敷天満宮等に、初詣・地方祭(みこし来訪)等実施。自治会主催の「盆踊り」「文化祭」等に職員参加している。又、自治会の水路掃除・お寺の草ひき等にも参加し日常的に交流が図られている。</p> <p>(外部評価) 現在は感染症の予防を第一に考えて地域との関わりを控えている面はあるが、ホームは自治会に加入して地域の情報を得、行事等を通じて地域の方と交流することを楽しみにしている。小学生や幼稚園児の「見守り隊」として地域に貢献することも利用者の大きな役割であり、生きがいとなっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 自治会の会議時、運営委員会等でホームの取り組み・行事等報告することにより少しずつ理解されている。保育所との交流、小中学生との体験学習交流(老健へ来た時に会話)等により理解されるよう活かしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。行事報告、研修報告等行い意見交換も行われている。又、利用者様の意見を聞き、出来る事はサービス提供と反映していく。意見を真摯に受け止め、サービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には利用者・家族・民生委員・市担当者等が出席して報告や意見交換を行い、詳細に記録を残している。出席できなかった職員にも内容を伝達している。会議を、学習の場、さらに地域との関わりを深めていく場として捉えており、今後の取り組みが期待できる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議や家族会でケアの実情を把握して、地域包括支援センターのケアマネジャーや担当職員と連携している。地域包括支援センターや居宅支援事業所ケアマネジャーに運営委員会に出席してもらい、日頃の取組みを報告している。在宅支援の専門的立場から率直な意見をもらい、質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) ホームは法人内の一事業所であることから、市との直接の対応は法人内の居宅介護支援事業所のケアマネジャーが中心的な役割を担っている。市担当者は認知症ケアに深い理解があるため、課題解決のための支援を得られている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) グループホーム内だけではなく、法人全体で拘束をしないケアに努めており、Webを活用して情報の共有に努めている。利用者様の身体状況・日常生活を十分観察して拘束をしないケアを実施している。</p> <p>(外部評価) 法人全体で行っている身体拘束をしないケアの勉強会にホームも参加して学び、職員間で正しく理解して共有している。玄関の施錠は20時から6時30分とし、安全に配慮しながら自由な暮らしを支援できるよう配慮している。言葉かけ等で気がついたことは職員同士で話し合い、アドバイスし合っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日々の利用者様との関わりの中で言葉遣いにも注意している。 また、定期的に勉強会をし、職員への虐待防止の意識向上を図り虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在財産管理・運用に対する問題のある方はおられないが、必要に応じ資料による説明を準備している。 又、居宅介護支援事業所と支援センターとの連携を確保し支援できる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 担当ケアマネジャーと十分な話し合いを持ち、助言を受けながら重要事項説明書にて説明し入居の検討をして頂いている。法人の基本指針にもあるように利用者様の権利を尊重し、利用者様の納得する介護を提供するよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族来訪時や電話にて日常の様子をお話し、意見・要望をお伺いしている。又、意見箱・アンケートを実施し職員全員に周知徹底しサービス改善に努めている。 運営推進会議にご家族にも出席頂いている。  (外部評価) 日々穏やかに明るい表情で生活している利用者に家族も安心しているが、管理者は何でも伝えてもらえるよう努力している。家族の希望や接遇についてのアンケートも実施し、サービスの向上や改善に活かしている。第3金曜日の家族会（ファミリーday）でゆっくり家族と会話する時間があり、その際にも意見や要望の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 介護老人保健施設との合同ミーティング、グループホーム独自のミーティングに於いて意見交換を行っている。又、法人の運営委員会にて提案し、代表者にも意見が届き反映されている。  (外部評価) 職員が意見を出しやすく話しやすい雰囲気が作られている。全職員の意識の中に「ホームを良くしたい、良くしていこう」という気持ちが強く、代表者や管理者も職員の声に耳を傾けるよう心がけ、よい気づきやアイデアを活かして運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者、職員が出席する全体会議等に出席し、職員と意見交換する機会をつくっている。又、ホームへ訪問し職員個々の意見も積極的に聞いている。 課業評価にて自己計画、反省と共にやりがいのある職場環境整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員一人ひとりの目標や自己評価に目を通しし、個々のケアレベルの把握に努めている。又、資格取得のためのセミナー等への参加も積極的に進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会等参加し、交流を図り意見交換をし、サービスの質の向上に努めている。又、法人内での事業所、運営委員会活動を通じてサービスの質の向上に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、利用者様と面接し十分相談、内容を聞いて受け取る努力をしている。又、担当ケアマネジャー、ご家族との連携でスムーズな入居となるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談時より又、見学時、契約時に困っていること等、時間をかけ聞く機会を作り、信頼関係ができるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当ケアマネジャーとも十分に話し合いを持ち検討している。又、ご本人やご家族とも十分に協議・相談して支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 自発的に行動できる場面作りに努めている。生活面でも「人生の先輩」である利用者様と共に行い、教えて頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホーム内での生活状況や希望されていること等、家族会面会時やお電話にてお伝えし情報を共有している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 個別的な場所に関しては、ご家族の協力を得られるよう声掛けをしている。馴染みの方については、ご本人・ご家族ともに相談しながら面会の機会をつくり、関係が途切れないようにしている。  (外部評価) 同法人の介護老人保健施設での交流会では、利用者が昔馴染みの方と接することも多く、楽しみの一つとなっている。また、法人内施設主催の音楽会等にも参加するなど、積極的に関係づくりのための取り組みを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 外食・買い物・ドライブ・レクリエーション等利用者同士の関わり合える場面作りを支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も必要により、関係を継続できるようお話し相談・電話ができるよう支援している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメントを行い把握している。ご本人及びご家族ともコミュニケーションをとりながらご本人の思いを察知し、精神安定に努めている。 又、全職員が利用者様一人ひとりの意向を把握するよう努力している。 (外部評価) 理念の「その人らしい生きがいのある心地良い今」をケアに活かすために、利用者の要望を把握して記録に残し、毎月のカンファレンスの中で検討してケアに繋げている。テレビを見たり、会話をすることで思い出の景色や八十八所参りなどが話題になることもあり、思いや意向の把握に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご家族に生活歴や自宅の様子をお聞きし把握に努めている。馴染みのある物など、ご家族に協力して頂き居心地のよい空間作りに努めている。全職員が生活歴を十分に把握し、個々のサービス利用に役立てるよう努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ある日突然に心身状況が変化することがある事を認識して、一人ひとりの現状把握を行っている。食後の休息等利用者様のペースに合わせ支援している。生活のリズムを守る為、一日の流れはやや決まっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日の気付きを書くシートをケアプランに連動できるシートに使用し、カンファレンスを今の問題からずれないように工夫している。 介護計画と日常ケアとを十分経過観察に努めている。  (外部評価) 利用者を担当制にしており、担当者不在の間のこともしっかりと申し送りを行っている。その人らしい生活を実現するため、3項目程度のサービス内容を立案している。介護記録に利用者の会話を盛り込むことで、より具体的な様子がわかるようになっている。3か月に1回評価し、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの日々の様子やケアの実践・結果、気づきを個別記録に記入し、職員間で情報を記入しながら実践し介護計画の見直しに活かした援助をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 隣接の介護老人保健施設との交流をし、柔軟な援助を行っている。看護職員・歯科衛生士・PT・OT・ST・健康運動療法士・管理栄養士等のアドバイスを受けられる体制であり、よりいっそうの自立支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 隣接している介護老人保健施設との行事に参加させて頂き、他の利用者様との交流をしている。 又、近隣の保育所の園児との交流で楽しく過ごして頂き交流を図っている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関も整っており、訪問診療を受けられてい る利用者様もおられる。 又、希望されるかかりつけ医とも連携をとっている。</p> <p>(外部評価) 医療法人が母体となっており、体調悪化や急変時にも 24時間体制で対応してもらえるため、利用者や家族 も安心できる。近所の歯科からの往診も可能となっ ている。その他専門科等の受診は家族の付き添いを基本 としている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 訪問看護ステーションと連携を図り、日常の健康管理 をしている。又、広瀬クリニック・在宅支援診療所と の連携も図れている。 24時間医療連携も可能な支援をしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院加療中も主治医とも連携し、早期退院に向けて話 し合い、又退院後の療養計画・ホーム入居復帰につい てご家族とも相談し協力している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時に説明を行い、意向を伺っている。又、体調変 化があれば、その都度ご本人・ご家族と十分話し合い 説明しながら方針を共有している。 広瀬クリニック・在宅支援診療所・訪問看護ステー ションとの連携を図り、看取りの経験もある。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時に本人及び家族 に説明して意向を確認している。また状況に変化が あった場合等にはその都度話し合い、方針を共有す るよう努めている。ホームとして看取りの経験もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し徹底。 月1回勉強会も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月10日を「防災の日」としシュミレーションも行い、又年2回の防災訓練を行って、マニュアルも作成している。  (外部評価) 年2回、消防署の指導の下で昼間と夜間を想定しての訓練を、隣接の介護老人保健施設と一緒にやっている。備蓄も完備し、スプリンクラーは市及び消防署と協議して2009年度末までに設置するよう計画している。毎月10日を「防災の日」として全職員の意識づけを行っている。	災害対策について、頻繁に運営推進会議のテーマとして取り上げて地域との話し合いを継続し、地域の協力も得ながら一緒に訓練を行うなど、実践的な取り組みや、緊急連絡網を使った訓練の再確認等、より高いレベルでの訓練を継続実施することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩である事を認識し、言葉かけや対応に心掛け人格の尊重をし、個々のプライバシーには誠意をもって対応している。又、個人記録等保管する時は逆向きに保管し氏名が見えないようにしている。  (外部評価) 言葉の内容や語調、家族の意向に沿った呼び方など、利用者一人ひとりに応じた配慮をしている。各居室への入室時は必ずノックをしているが、家族に許可を得たうえで夜間はノックを控えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 料理作り、レクレーションの参加等、声掛けをして自己判断にてお願いし、自己判断が困難な方には意欲の一端が見えたその瞬間を大切に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事に十分時間をかけて食べられる方、ゆっくりと入浴を楽しまれる方等、利用者様のペースに添えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月2回理美容の便宜を図っている。又、馴染みの店へご家族と共に出掛ける事によって、ふれあいの時間が持てるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎月1回の食事会や外食時、利用者様の希望に答え利用者様と準備し同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をしている。  (外部評価) 基本的に献立は栄養士が作成している。味付け・盛り付け・後片付けなどを、力に応じて利用者に行ってもらえるよう支援している。食事中に童謡を流しているユニットもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎朝、計測実施。 個人バイタルチェック表にて把握している。 毎月1回の体重測定により、体重の変化に気を付けている。(BMI) 食事摂取量チェック、1回の水分量のチェックを担当者が把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、見守り・声掛けにて口腔ケアを実施し歯科衛生士による月1回口腔ケア指導も行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者様の排泄の時間帯、又はパターンを把握しオムツ内の排泄、トイレでの排泄、失禁、羞恥心に配慮しながら支援している。	
			(外部評価) 職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間は30分おきの見回りを実施し、利用者のパターンに合わせてトイレ誘導の声かけ等を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様が服用されている内服薬を体調に合わせてコントロールし、食事や水分補給、個人個人に合った適度な運動や散歩を習慣付けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者様の一人ひとりのペースに合わせて個人入浴を行い、入浴中の楽しみを満喫されている。又、介護老人保健施設ヒロセの湯浴施設で入浴希望される方もおられる。	
			(外部評価) 安全に心地良く入浴できるようバイタルチェックも欠かさず行っている。夜間の入浴を希望する利用者は少ないが、希望の入浴時間を確認しながら個別に支援している。併設の介護老人保健施設の大浴場も利用でき、好評である。入浴拒否のある場合は、職員のチームワークや対応の工夫によって安心感を持って入浴を楽しむことができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様の日常の体調や生活リズムを整える事で安眠・不眠・不穏の支援を行っている。又、個人の時間を大切に、居室で自由に過ごして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診時の医師の指示や内服の内容、処方された薬の説明書を全職員が目を通し把握するようにしている。又、状態の変化に気を付け、日頃と違う状況であればかかりつけ医師に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎朝、体操の時間を設けている。又、毎日の散歩は日課となっておりプランターの水やりや、食事の盛り付け、片付け等一人ひとり役割を持たれ喜ばれている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調・天気の良い日はホーム周辺を散歩しながら地域の人々と談話したりして、交流しながら季節の花を楽しまれている。又、ご家族の協力のもと外出・外泊されたりする利用者様もおられる。日頃より外出の希望はできるだけ対応できるように、買い物などの日を設けている。 (外部評価) 近くのスーパーや薬局へ買い物に出かけたり、気分転換にドライブをかねて外食することは、社会との関係を継続させる働きかけとなっている。家族の協力を得て外出・外泊を実現できるよう、職員からも働きかけられている。日常的に近所に散歩に出かけ、地域の方と挨拶を交わしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には事務所預かりとしている。利用者様とご家族との相談の上、小遣い帳に記入して頂き管理・確認して頂いている。金銭は事務所に預けているが、使いたい時に使えるようにしている。小遣い帳などを活用し、収支の把握や計算が出来るようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人希望時、電話できるよう支援を行っている。声掛けにて、利用者様が定期的到手紙のやり取りができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 畳コーナーなどの共用スペースにて、季節の花を観賞されたり、作品を作られ楽しまれている。夜間ナースコールを遠慮されるような場合は、鈴等でも対応している。</p> <p>(外部評価) 共用空間には季節を感じさせる草花を飾り、家庭的な温かみのある空間となっている。イスに座って庭を眺めることもでき、居心地良く自由に過ごすことができるよう工夫されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用スペースの中でも色々な場所で休めるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時に愛用されている物や、使い慣れた物を持参して頂き、ご家族の写真や趣味の物等でゆったりした空間を過ごして頂いている。</p> <p>(外部評価) 仏壇・イス・鏡台など使い慣れたものを家族の協力を得て持ち込み、利用者ごとに個性的で快適な居室となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) できる事、できない事の見極めをし、利用者様ごとにケアプランにあげ場面作り・見守りのケアの中で食事の準備等積極的にされ自信に繋がっている。</p>	